

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2012-秋

No.70

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



北京の秋 1979年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

ダンブッラの黄金寺院 (スリランカ民主社会主義共和国)



ユネスコ世界遺産(文化遺産)シリーズ

©UNESCO

ダンブッラは、スリランカのほぼ中央のキャンディ、ポロンナルワ、アヌラダプラの三古都を結ぶ、いわゆる文化のトライアングルの中央に位置し、岩山中腹に開かれた石窟寺院。紀元前一世紀の開窟以来、常に信仰の対象として生き続けてきた。現在五窟あり、第一窟は頭を北に向けて横たわる約十四体の涅槃仏で知られ、最大の石窟である第二窟には五十数体の仏像が安置され、壁や天井は数々の壁画で覆われている。第四窟は盗掘がなはだしく、第三窟は十八世紀の作、第五窟は一九五一年に開窟された。

(一九九一年に文化遺産として登録)

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

赤十字の精神と平山郁夫先生

平成九年(一九九七)の春の或る日、平山先生が日赤に私を訪ねて来られました。「文化財の赤十字」という運動を始めたのですが、断りなく赤十字の名前を使わせていただいているのでどうかをお許しいただきたい、というお願いのためでした。

海外には、日本から渡った多彩な一流の文化財が存在していますが、保存が悪かったり手入れの仕方を知らないために、その多くが本来の姿を損なっており、それを日本の専門家の手で修復してあげたいというのが運動の趣旨ということでした。文化財はきちんと守られてさえいれば、どこにあってもかまわないというのが先生のお考えでしたが、実際に海外の美術館などに当たると、初めは返してくれども言われるのではないかと警戒して、中々話が進まなかったそうです。ところが、趣旨が伝わったら一転して、見たこともない素晴らしい収蔵品が次から次に出てきたことがあると楽しそうに話しておられました。

赤十字のマークや名称は、条約や法律で厳しく使用が制限されているので、先生のご要望にはいささかの戸惑いがありました。

が、「傷んだ文化財を国境を越えて守る」という趣旨は、「傷付いた兵士達を敵味方の区別なく助ける」という赤十字の思想と相通ずるところがあり、先生の熱意にも動かされて「どうぞお使い下さい」とご返事をしました。

タリバンによってアフガニスタンのバミヤンの石仏が破壊されたのはそれから間もなくだったと思います。国際法上も禁じられている暴挙であり、早速に復旧の話が各方面から持ち上がりましたが、先生は文化財に残された傷跡も残すべき歴史の真実であると、復旧には賛成されませんでした。振り返れば人類史上、戦火の途絶えた時期は殆どありませんでした。それをかい潜って今日まで伝わっているのが文化財であり、だからこそ大切に守っていかなければならない責任が現役世代にはあります。

自らが原爆の被爆者であられた先生だけに、余計にその思いを強く持たれたのかも知れません。

文化財保護の運動が、赤十字と同じく時空を越えて広まってゆくことを願って止みません。

参考

【文化財保護に関する国際法】

ハーグ条約(武力紛争の際の文化財の保護のための条約)

一九五四年にハーグにおいてユネスコ主導で作成された。

ジュネーブ条約追加議定書

一九七七年に作成された。新たな重大な違反行為として、第八十五条四に「特別の保護が与えられている歴史的建造物、芸術品又は礼拝所を攻撃し広範に破壊すること(軍事的に利用されている場合を除く)」が加えられている。



日本赤十字社 社長
国際赤十字赤新月社連盟 会長
近衛忠輝
(このえ ただてる)

著者略歴

一九三九年五月八日(世界赤十字・赤新月デー)、東京生まれ。学習院大学卒業後、ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスに二年間留学。その留学先からの帰国途中に中東、アジアの紛争地を巡り、帰国後日本赤十字社に入社。以来四十年以上にわたり赤十字一筋で活躍。
二〇〇五年、日本赤十字社長に就任。同年十一月、国際赤十字・新赤月社連盟の副会長に就任後、二〇〇九年十一月、国際赤十字・新赤月社連盟(現在百八十七の国と地域が加盟)の会長に就任し、現在に至る。

震災からの完全復興をめざして 五浦からの便り

東日本大震災は未来永劫に語り継がれるべき大災害でした。地震により発生した大津波は多くの建造物を破壊しました。北茨城市五浦にある岡倉天心ゆかりの六角堂は、そうした被災建造物の象徴的存在でした。その六角堂が多くの人々の善意によりこのほど再建されました。奇しくも来年は天心生誕百五十年です。六角堂再建のエピソードを御紹介しましょう。

悲劇と衝撃の日

昨年三月十一日の東日本大震災は驚くべき大変悲しい出来事でした。日本だけでなく、世界の人々から愛されていた北茨城市五浦の六角堂が、十ヶ近い大津波により私たちの前から土台を残して姿を消してしまつたのです。六角堂は岡倉天心が新たな日本美術の創造のためこの地に移り住み、明治三十八年に海に突き出た岩盤の上に創建した小さな赤い建物です。大波を見る東屋「観瀾亭」と呼び、この中で天心はお茶を点て瞑想に耽ったといわれています。六角堂は天心亡きあと岡倉天心偉績顕彰会が管理していましたが、昭和三十年に茨城大学に寄贈され、その後茨城大学は五浦美術研究所（現五浦美術文化研究所）を設立して管理してきました。流失を知り多くの人たちから復興を望む声が届けられ、それに応えるべく茨城大学は「茨城大学の岡倉天心記念六角堂等復興基金」を設立して天心・六角堂復興プロジェクトを発足させました。

六角堂はこれまでに何度も改修が行われ多くの箇所が創建当時と異なる姿に変わっていました。文化



土台のみ残して消滅した六角堂

財には建てた人の気持ちや考えが備わっているものです。そのため今回の再建は、単なる再建ではなく「天心の想いが込められた創建当時の姿に復元する」という基本方針を立てました。創建当時の資料はほとんど残されていませんでしたので、茨城県建築士会の皆さんの全面的な協力を得て、さまざまな角度から創建当時の六角堂の検証を行い図面が完成しまし

六角堂再建への道程

流失した文化財を再建するには海底に沈んだ実物ができるだけ回収してそれを用いて復元する必要があります。六角堂が海に沈んでいくところが写真に撮られていますので、その付近を中心に四回にわたる海底調査を実施しました。その結果、瓦類二百三十五枚、木の板一枚、六角柱の水晶や、宝珠の破片を回収しましたが、本体は見つけることはできませんでした。回収された瓦の多くはJISマークが付いているような現代瓦でしたが、古い写真から推定すると当時は小さな棧瓦であることが分かりました。当時は三州瓦が使用されていたので、今回は愛知県高浜市で八寸幅（約二十四センチ）の棧瓦を焼いてもらい使用しました。

六角堂は岡倉天心が平潟港の船大工に作らせたといわれています。当時平潟港では北茨城地区または福島県いわき市の県境近くで生育した大杉の芯材（赤



茨城大学・特命教授
三輪五十二
(みわいそじ)

身）を使用して和船を作っていました。潮風にさらされる六角堂は水に強いこの和船用木材を譲り受けて建設したものと思われます。今回いわき市の山林の持ち主から樹齢百五十年、樹高四十三メートルの太郎杉が提供されましたので、真ん中の腐食しにくい赤身の部分を使用しました。奇しくも来年が天心生誕百五十年に当たります。

スは作られていませんでしたが、アメリカでは機械吹円筒法という製法で大きな板ガラスが製造されてきました。天心はボストンから輸入したものを使用したものと思われます。現在そのような方法で製造している会社は日本には見つかりませんでしたので、今回はイギリスで同様の方法で作ったものを輸入して使用しました。適度な歪みをもった窓ガラスを通して見る大海原は天心の心に焼きついたものと思ひます。

六角堂の特徴の一つは朱色の塗装です。流失を免れた台座の側面に残っていた赤い塗料を分析してみると、内側の層からは鉄が検出され、ベンガラが塗られていたことが判りました。江戸・明治時代には岡山県成羽町吹屋の天然ベンガラが各地で使われていました。今回の六角堂再建では岡山の西江邸から天然ベンガラが寄贈されましたので、それを桐油に溶いて塗ることにしました。

第三回目の海底調査で見つかった全高約三十六ミ、幅約二十ミの先の尖った六角柱の水晶には底面には白っぽい付着物がありました。水晶は海底から宝珠の破片と共に見つかったので、底面の白っぽい物質は化学分析の結果、漆喰であることが判明しました。宝珠の基部にも同じ漆喰が使われており、水晶は宝珠の中に納められていたと思われます。天心は六角堂を「仏堂」としても意義つけており、仏堂には古来より仏舎利を納める風習があります。水晶はそのために入れられた可能性もあります。新しい六角堂に受け継ぐ創

永久に伝えたい天心の精神

明治四十年代の写真には離れ磯の岩礁に石灯籠が写っています。天心は六角堂を「茶室」とも見立てており、正面の岩礁に石灯籠を配置したものと思ひます。写真から石灯籠は高さ百七十センチで、笠石も火袋も六角形をした三本足の雪見灯籠であることが分かりました。雪見灯籠を設置することで本当の意味での創建当時の六角堂が完成します。波に耐えるように中に直径二十センチのステンレスの円柱を通して岩に固定しました。六角堂と雪見灯籠を一体として見るとその素晴らしさに天心の想いが分かるような気がします。

平成二十三年十一月二十一日の起工式、平成二十四年三月二十七日の上棟式、四月十七日の竣工式を終え、六角堂は財団をはじめ多くの方々のご支援のもとに蘇りました。四月二十六日ライトアップも始まりましました。天心の思いのこもった蘇った六角堂を多くの方に見に来ていただき、天心の考えに想いを馳せていただければ幸いです。

今後は天心の精神が継続されるように日本美術院研究所の復元も視野に入れ五浦地区全体の復興を考えていきたいと思ひます。

筆者略歴

一九四五年愛知県生まれ。七十三年東北大学大学院理学研究科博士課程修了。茨城大学教養部教授、理学部教授を経て、二〇一二年三月定年退職後、現職



再建なった六角堂

伴大納言絵巻のおもしろさ

時は清和天皇の御世^{みよ}。貞観八年閏三月十日夜、内裏の枢要な門のひとつ応天門が突然炎上。ここに平安京をゆるがした大スキャンダル^{スキャンダル}の幕は切って落とされたのです。

当財団恒例の文化財保存修復カレンダー募金。明年からのカレンダーのテーマは、国宝「伴大納言絵巻」です。平安朝にあつて、藤原氏が政権の座を確立していく過程を雄弁に語ってゆく絵巻の見所、おもしろさをうかがってみました。

「伴大納言絵巻」とは

「伴大納言絵巻」は、「源氏物語絵巻」、「信貴山縁起絵巻」、「鳥獣人物戯画巻」（いずれも国宝）とともに日本の四大絵巻と称され、代表的な絵巻として知られる。一人の実在した政治家の野望と失脚を描く「伴大納言絵巻」のストーリーは、史実をもとにしているだけに他の作品とは異なり現実味があり、またそれが絵画化されるにあたって絵師の表現におけるすぐれた演出が、場面展開を非常にもろく構成しており特筆に値し、絵巻という日本独特の絵画芸術の醍醐味を堪能させる。

「伴大納言絵巻」で語られる話は、『三代実録』などに記録される歴史上の事件による。貞観八年（八六六）閏三月十日の夜、内裏の枢要な門のひとつ応天門が突然炎上した。この不穏な事件に脚色を加え、物語としている。「説話集『宇治拾遺物語』のなかの「伴大納言焼応天門事」は、このストーリーとはほぼ一致している。ただし、絵巻と実際とはあきらかに異なることがある。もつとも大きな違いは、絵巻や『宇治拾遺物語』では、時の大納言伴善男が自分の出世のためという、はっきりとした動機があつて応天門

に火を放つのだが、史実では動機不明のまま伴善男が放火犯として処罰されることである。絵巻は、重大事件を人々が語り継いで出来た説話を絵画化しているだけに、その内容には事件への一般的な好奇心が反映し、またわかりやすいストーリーの展開が脚色として加えられたのであろう。

制作の背景と非凡な構合力

「伴大納言絵巻」は、十二世紀後半に後白河上皇のもと当時の宮廷絵師の代表格であつた常磐光長によつて制作されたと考えられているが、現代人が見ても驚くべき数多くの美的なおもしろさが詰まっている。ここでそのうちいくつかについて紹介しよう。

まず、物語をおもしろく、そして劇的に表現しようとする絵師の工夫が随所に認められる。最大の工夫は、ストーリーを説明的に忠実に絵画化せず、鑑賞者に絵巻を繰り広げていく時間の経過とともに、

ストーリーを自然に認識させていく場面構成の仕組みである。たとえば、伴善男が応天門に放火する場面も、また逮捕される場面も直接描かれないが、鑑賞者は讒言後の善男の姿に、あるいは残された善男の使用人たちの愁嘆場にそれを理解するのである。伴大納言はこの絵巻の主人公であるにも拘わらず、物語における重要な箇所での描写が全くないということになり、極めて演出的な表現とみなすことが出来る。それは、現代に置き換えていうと、映画や演劇の演出法を思わせるミステリアスな手法である。

その手法は画面構成の妙によつて、いつそう引き立てられている。つまり、さまざまな場面の対比によつてである。たとえば、炎上する応天門をはさんで、風下には煙と熱風によつてパニックに陥る庶民たちを、風上には高みの見物を決めこむ余裕を見せる貴族たちというように描き分けられる。また、同じように泣く女房たちを描きながら、左大臣源信邸では、いったんは罪を着せられたものの、やがて罪が晴れていくさまを喜びの涙としてあらわし、伴善男邸では野望が挫折し逮捕された後の救いようのない絶望の涙としてあらわしている。そして善男逮捕の場面をはさみ、検非違使の逮捕前のおふれる緊張感と逮捕後の充実感や安堵感からくる余裕という描き分け

などである。巧妙な対比の組み合わせは、絵巻の展開を巧みに劇的にしている。

存在感のある脇役たち

また、絵巻には四百名を超える人々（その多くは庶民たち）が登場する。いわば脇役たちであるが、実は彼らは絵巻のすぐれた演出的な画面構成に欠くことのできない存在となっている。四人の主役たちの動向を脇役が固め、しっかりとしたストーリー・テリングとなっているのである。その脇役の顔を見ると誠にもしろい。「表情の百科全書」とは、「伴大納言絵巻」に対する代表的な評言のひとつであるが、すべての登場人物は、ひとりひとり個性的な表情をしているといつてよい。たとえば、「源氏物語絵巻」を見ると、「つくり絵」と呼ばれる技法によつて登場人物を、あえて表情を出さずに鑑賞者にイメージさせる。（つくり絵）とは、墨の線で下描きをした上に濃彩な彩色を塗り、細かな部分を墨の線で描き起こしていく技法で、彩色の美しさと線のもたらす微妙な表情表現にすぐれる。また、修行僧命蓮のおこなった奇跡を描く「信貴山縁起絵巻」を見ると、とくに奇跡に驚く場面で顕著であるが、人物は太くて濃い伸びのある闊達な長い描線で象られ、誇張はしているが表情をダイナミックに表現している。それは命蓮が成し得た奇瑞への興味や共感を誘う。「伴大納言絵巻」の入り組んだ物語の複雑なストーリーとは違い、わかりやすい奇跡や奇瑞に対する素直な驚きがうまくあらわされている。

「源氏物語絵巻」の抑えた表現、「信貴山縁起絵巻」の誇張された表現とくらべると「伴大納言絵巻」の人物の表情が、もつとも自然な感覚に近い。技法を見ると、人物を象る描線が短く肥瘦に富み豊かな表情を持ち、それによつて筋肉や皮膚の緊張感や動きを、細かく微妙に表現できているのである。「伴大納



原本:出光美術館蔵。上巻-1 永井翔彩・模写 すわ、事件発生! 飛び交う怒号。取る物も取り敢えずの体で出動する検非違使たちの場面からこの絵巻は始まる。

言「絵巻」の登場人物たちは、まるで映画のなかの役者のように、いきいきと動いているように見えてくるのである。動かない画面をまるで動くかのように鑑賞させるおもしろさこそが「伴大納言絵巻」の最大の美的特質と評価したいが、それをもつともよく実感させるのが、異時同図法と呼ばれる技法である。それは、同一人物の異なる時間の場面を同一の画面に描く絵巻独特の表現手法である。しかし多くが説明的な冗長さに陥ってしまう場合が多いのに対し、「伴大納言絵巻」では、類を見ない円環状の構図のなかで、大変テンポ良く、事の一部始終をあらわしているのである。工夫された構図に、たしか人物デッサンによつて表現されたこの場面は、もつとも典型的で、出色の異時同図法の好例である。

模写の意義と役割

このように見てきて「伴大納言絵巻」は、どこか不安で少し不機嫌な現代にあつて、アニメーション等の視覚的な刺激にも慣れた私たちにとって、今まさに鑑賞の好機を迎えたと言えるだろう。しかし、制作後九百年近くを経た作品の頻繁な鑑賞は、文化財保存の観点から叶いにくいのもまた事実である。保存と鑑賞という二律背反にあつて、このたびの模写作業は、その出来映えからして、将来の「伴大納言絵巻」鑑賞の機会を補うものとして、意義はきわめて重大であると考ええる。

筆者略歴

一九五四年福岡県生まれ。九州大学文学部卒業。公益財団法人出光美術館学芸部長。専門は日本絵画史。女子美術大学、東京藝術大学非常勤講師。京都造形芸術大学客員教授。



公益財団法人
出光美術館学芸部長
黒田泰三
(くろだ たいぞう)



ロンドン公演の舞台となった
クライストチャーチ・スピタル
フィールズ

教会オペラと能楽の豊饒の競演

東京藝術大学音楽学部教授
澤 和樹
(さわ かずき)

ユニークで意義ある試み

東京藝術大学音楽学部では平成二十一年度から三年間にわたって日本学術振興財団の助成を受け、日本とイギリスの文化交流をテーマとして若手研究者等海外派遣事業を行って来た。今回はその集大成として、イギリスの大作曲家、ベンジャミン・ブリテン（一九一三〜一九七六）が一九五六年の来日中に観劇した能楽「隅田川」から受けた感銘をもとに、八年の歳月をかけて完成させた教会オペラ「カーリユー・リヴァー」をロンドン、およびこの作品の初演地であるサフォーク州のオーフォードで「隅田川」との比較同時上演という形で行うという企画である。

実は、この二つの作品が並べて上演されること自体は、それほど珍しいことではない。しかし能楽の出演者、「カーリユー・リヴァー」の主役級歌手と器楽奏者を大学関係者で固めた上で、イギリスの音楽家、演出家とのコラボレーションという形を取り、なおかつ「カーリユー・リヴァー」初演の地で「隅田川」を上演できたという点では、大変ユニークなものであったと自負している。



初演時に使用されたパーカッション・スタンド

イギリスが生んだ大作曲家ベンジャミン・ブリテンは能楽の名曲「隅田川」から靈感をうけ、教会オペラ「カーリユー・リヴァー」を完成させました。日本の古典芸能を母体とした教会オペラと能楽の競演が生誕百年を前にしたブリテンの故郷の地で実現しました。その模様を御報告します。

なんとか実現のメドをつけることができた。八月二十日から三十一日まで、音楽監督のドミニク・ウィラー氏、演出家のデイヴィッド・エドワーズ氏が来日し、連日の猛暑の中、八時間に及ぶ稽古が繰り返された。能から触発された作品だけに、指揮者のタクトで、歌手もオーケストラも統括されるというのではなく、少人数ながら、歌手、器楽奏者それぞれが、相手の出方を読み取って、自分がイニシアティブを取ったり、周りに従ったりという、いわゆる能楽における「見はからい」が奏者に要求される。そのために、歌手も器楽奏者もひとりひとりが音楽全体を掌握していなければならず、リハーサルは極めて密度の高い集中したものとなった。

演出面では、音楽づくりの状況に合わせて、アイデアがどんどん変化してゆくといった感じで、器楽奏者もステージ上で、歌手の動きに合わせて積極的に演技に加わるという興味深い形になっていった。九月三日には、「カーリユー・リヴァー」チームが、ロンドン入りし、翌日から、イギリス人の若手オペラ歌手たちによる合唱団とのリハーサルが始まった。初日リハーサルでは、作曲者自身によるこの作品の演奏に何度も参加した打楽器奏者のデイヴィッド・



ロンドン公演終了後のカーテンコール

ロンドン公演の反響

コークヒル氏が立ち合ってくれ、リハーサル終了後には、藝大の学生たちに、ブリテンがリハーサルで要求したことや、初演時の演奏家たちのエピソードを語るなど、極めて興味深い有意義なものであった。その上、彼の先生のジェイムズ・ブレイズが初演時に使用したパーカッション・スタンドを貸し出してくれた。

に隣接した教会で、スピタルフィールズ音楽祭の中心施設として、演奏会も頻繁に行われている教会である。この教会に、やや小さめながら橋掛かりや欄干も有した仮設の能舞台を設け、このステージで能楽とオペラをわずかに三十分の休憩を挟んで行うという事になった。イギリス側の舞台スタッフは、当初、能楽で要求される舞台表面の仕上げの緻密さや白足袋で上がる橋掛かりへの階段や舞台上での「土足厳禁」への強いこだわりなどを理解しかねるようだったが、シテの邦楽科の関根知孝教授の粘り強い説明に納得した後は、大変協力的で、仮設舞台も立派なものに仕上がった。九月六日には大和日英基金のジャパンハウスにおいて、関根教授と、ベンジャミン・ブリテンの研究者である向井大策氏によるワークショップが行われ、向井氏による「カーリユー・リヴァー」成立についてのレクチャーと関根教授による能への入門講座があり、質疑応答も積極的になされ、翌日の公演に向けて意義深い講座となった。

ロンドン公演は、用意された三百席がほぼ満席となり、「隅田川」が始まると聴衆は「水を打ったような」静けさで、極めて集中度の高い舞台に魅せられていた。関根教授によると「東京でも、これほどに集中して舞台と同じ呼吸をしている見所（客席）は稀です。見慣れていなくとも『目利き』なのだなと感じました」との事で、拍手のタイミングなども含め、大変質の良い聴衆という印象を受けた。続く「カーリユー・リヴァー」では、一転して、舞台上は、ホームレスの集団を思わせる斬新な演出で、ブリテンが「隅田川」から受けたインスピレーションを反映したオペラの演出としては疑問……とする批評も見受けられたが、歌手の歌、演技、そして教会の残響の多い中でもクリアな発音がされた英語についても最上級の賛辞が贈られたし、藝大生による器楽奏者たちの音楽と同化した見事な演奏やアンサンブルに聴衆から惜しめない拍手が送られた。

「カーリユー・リヴァー」初演の地にて

九月九日は、「カーリユー・リヴァー」初演地であるサフォーク州、オーフォードの教会での公演。九世紀からこの地に存在し、現在の建物も十二世紀に造られたという由緒ある教会で、床には円形のモニュメントが残され、ブリテンが、「カーリユー・リヴァー」を始め、三つの教会オペラを初演したことが記されている。初演地での史上初の「隅田川」と「カーリユー・リヴァー」同時上演は、この教会に宿るスピリチュアルなものも演奏者たちが感じ取ったのか、ロンドン公演を凌ぐ好演となった。観客の中には、イギリスの作曲家のオリヴァー・ナッセン氏も来られ、父親が、初演時のコントラバス奏者で、当時十二歳の彼は、何度もこの教会でのリハーサルを見学した話などを聴けた。

翌十日には、若手の器楽奏者たちは、ブリテンの活動の中心地であったオールドバラや、スネイプ・モルティンクスを見学し、イースト・アングリアの荒れた海や、スネイプ・モルティンクスのコンサートホール、また敷地の裏に広がる荒涼とした風景を見て、ブリテンの音楽や「カーリユー・リヴァー」の新たなイメージを感じ取ってくれたに違いない。この経験を生かし、十月二十八日の東京藝大音楽堂での公演ではさらに素晴らしい演奏につながるものと期待が膨らむ。このような素晴らしい芸術交流と若手演奏家への意義深い教育機会を可能にしてくださった（公財）文化財保護・芸術研究助成財団に心よりお礼申し上げたい。

※観世元雅作の狂女物。「子・梅若丸を人買いに誘拐された母親が流浪の末、武蔵国の隅田川でその死を知り、嘆き、悲しむ姿を描く。」
※イギリスのイースト・アングリアに設定された架空の川。
※※※能における主役。

漆の美 縄文から未来へ

東京藝術大学美術学部 教授
三田村有純
(みたむら ありすみ)

東北の山野に植生する漆。この一見ありふれた落葉高木の樹液が持つ摩訶不思議な力。漆は伝統工芸の世界にとつて、欠かすことの出来ない勝物の天然塗料。漆の素顔にせまってみると、そこには意外な事実が……。

漆と漆芸

漆は無限の可能性を秘めている。日本において、「漆」の文字は天然の木から採取できる漆液を意味する。「漆」の文字単独では化学合成塗料を表すことはない。しかし現代において「漆器」という場合、木製品に天然の漆を塗った物だけではなく、プラスチック素材に化学合成塗料を塗った物も含まれることが



漆の林の中での採取風景



樹幹からしみ出た漆液は乳白色をしている

多い。

化学合成塗料は漆とは別の特徴と独自の美を持つっており、化学合成塗料で塗られた物を漆芸、漆器というのは適切でない。

漆芸はウルシ科の木から取れる樹液を材料にして制作される芸術である。漆液の取れる漆の木は東南アジアを中心に植性している。主成分がウルシオール、ラッコール、チチオールと分類される。中国、朝鮮半島、日本は同じウルシオールの樹木である。

日本では東北地方に植生し、光合成が盛んになる六月半ばから、九月中頃にかけて木の幹に傷をつけて採取する。日本の場合、一年で樹幹の全体に傷をつけて、漆液を盗り切り、その後、萌芽更新のために木を切り倒してしまう、いわゆる殺し掻き法で採取される。したがって、約十五年位育てた木はその年で命を終わる、液は約二百グラム取れる。

漆液固化する条件としては、二十〜二十五度の温度、六十五〜八十パーセントの湿度を必要とする。このときラッカーゼという酵素が、漆の主成分を酸化重合させていく。ほりが入らないように密閉した木の箱に、温湿度を管理して、塗り上げた物を入れておく。通常は一昼夜で固化する。この一度固化した塗膜は、塩酸、硝酸、硫酸、アルカリなどの原液につけても、煙草の

火などの熱によっても壊されることはない。土や水分の中に埋もれて酸素の供給が途絶えた時、いつまでもその美は変わらない。ただ紫外線には弱いのが欠点である。

漆の遺物

日本の遺跡地を概観すると、新石器時代の縄文遺跡から、漆液を固着材とした遺物が出てくる。漆液の持つ強さが色材を固定し、あらゆる時代の遺跡から発掘される。その時代のロマンを語りながら現在に伝えられる遺物には多くのメッセージが託されている。そうした遺物の中から代表的な事例を紹介する。

北海道南茅部町垣ノ島B遺跡より出土した漆塗り製品は九〇七〇年前の物であり、文字通り世界の文化史を塗り変えることとなった。出土した遺物は、死者がまとっていた装飾的な衣服である。一本の繊維に朱漆塗りの細い繊維をまきつけた糸でアングリ織にしてあり、ところどころに玉状の飾りをつけてある。死者に対する吊いの儀式が現在に表出されていることに興味を覚える。

この遺物は二〇〇二年十二月二十八日の深夜に、八万点に及ぶ出土文化財とともに火災にあった。幸いにして、形の認識と繊維状の痕跡がはっきりと視認できる部分は焼失を免れた。二〇〇四年の十一月には南茅部町教育委員会より十二ページの調査報告が出された。分析結果から赤色顔料はパイプ状ベンガラであると確認された。その後残された塗料膜から漆のスペクトルが検出され、世界最古の漆製品であることが証明された。この一件から見ても、我らの祖先がはるか昔より漆を愛用していたことがわかる。次回ではさらに驚くべき事実を紹介したいと思う。

滝久雄

たき ひさお | 公益財団法人日本交通文化協会 理事長



古くから1部フオーアーツの法的な整備が進んでいますが、わが国では未だに

パブリック・アートの普及で無意識に芸術に触れられる環境づくりを推進

日本交通文化協会ではこれまでに全国の駅や空港、学校などに四百九十点を超えるパブリック・アート作品を製作・設置してきました。最近では八月に新潟空港にステンドグラス『佐渡ものがたり』（原画・製作：宮田亮平・東京芸術大学学長）を設置し、本誌が発行される頃には四百九十三点目の作品として富山空港に陶板レリーフ『立山』（原画・片岡球子画伯）も完成しているはずだ。

私たちがパブリック・アート事業を進めるうえで大切にしているのが、ハーバート・リードの『今、我々に欠けているのは芸術家ではない。大衆である。芸術に意識を持つ大衆ではない。無意識的に芸術的な大衆である』という言葉です。人々が普段の生活の中で無意識のうちに芸術作品に親しむことにより社会のモラルも高められていくと信じています。

しかし、日本は文化芸術に対する評価がまだまだ低く思えることが残念です。欧米では

第5回

文化事業への貢献

世界には様々な国があり、様々な民族がくらしています。そこには様々な文化が存在します。

優れた文化は国家、民族の誇りです。

文化を育てあげることが、世界に日本の存在を発信する大きな力になるでしょう。

こうした見地から御支援いただいている法人会員の皆様に文化への取り組みがうかがいました。

炎が育む文化の光

ガスというエネルギーは、触った目で見ることができないため、その存在を感じるには、お風呂や料理のように、暮らしのなかで活かされてこそといえます。

そのため、東京ガスでは、食の楽しみを支援するために、大正二年から料理教室を開催し、多くのお客さまにご参加いただいています。また、平成二年からは、子ども向けの料理教室「キッズ・イン・ザ・キッチン」を開催し、調理を通じて五感を育むことを目指す食育活動にも取り組んでいます。

入浴に関しては、バスタイムをよ

り効果的なものにするために、健康や美容によいお風呂の入浴方（例：肩こり解消、美肌などの効用）などを証明し、パンフレットや書籍などでご紹介しています。二〇〇七年からは、入浴に関連する企業十社とともに結成した風呂文化研究会で、一生を通して健康で安全に入浴を楽しむための「浴育」を提唱。男性のためのお風呂活用術「健・美・浴のすすめ」や、子どもたちの「はじめの銭湯」といった冊子を毎年発行しています。

さらに、東京ガスでは、今年度から新しい取り組みを開始します。東日本大震災では、火は、暖をとる、明かりをとる、料理を作るなど、その役割を発揮し、人々が生きていく力となりました。炎とともに歩んできた企業として、次世代に、火と人間のかかわりの歴史を伝えるとともに、「マッチをする」「火をおこす」「炎のゆらぎを楽しむ」というように、火の扱い方や火の楽しみ方を学ぶ「火育」プログラムに取り組めます。今後も、地域のために、そして、次世代はもちろん高齢者のために、さらなる



中塚千恵 | なかつか ちえ | 東京ガス株式会社 広報部 CSR室 社会文化センター

◆岡倉天心先生「百回忌法要」に参列して◆

上信越高原国立公園。妙高山の麓・赤倉の地で天心先生が身罷られて百年。
アキアカネが飛び交う初秋の空の下で偉大な先駆者を偲ぶ法要が執り行われました。
そこで、参列者の胸を痛める深刻な事態が披露されました。その事態とは……。

私どもは、毎年七月末に新潟県妙高市で開催される「妙高夏の芸術学校」を共催という形でお手伝いさせていただいております。名誉校長は当財団理事長でもある宮田亮平東京藝術大学学長、校長は福井爽人東京藝術大学名誉教授です。芸術学校は、今や夏の妙高を代表するイベントといった観がいたします。東京藝術大学の若手の先生を中心に編成された講師陣の人氣もあって、今回で十七回目を数えるに至っています。



天心先生胸像

なぜ妙高の地でこうした催しが開かれているのか、という問いに対する答えは、妙高赤倉が岡倉天心先生終焉の地であったからです。

天心・岡倉覚三先生は文久二年（一八六二）にこの世に生をうけ、大正二年（一九一三）にこの世を去りました。五十年という人生を天心先生は奔馬の如く走り去ってゆかれました。

東京美術学校（現・東京藝術大学）設立への貢献をはじめ、近代化を急ぐ明治期の日本において文化行政の推進、特に美術分野において、天心先生が重要な役割を果たされたことは論ずるまでもないでしょう。

その天心先生に敬慕の念を抱く妙高の人々は「にいがた妙高岡倉天心顕彰会」を設立。去る八月二十六日、顕彰会の人々によって御導師に法隆寺の大野玄妙管長



大野玄妙法隆寺管長による法話

以下、古谷正覚執事長、大野正法執事をお招きして、赤倉の天心山莊跡で「岡倉天心百回忌

法要」がしめやかに執り行われました。

明治十七年（一八八四）、天心先生は、アーネスト・フェノロサ（一八五三―一九〇八）と共に法隆寺を訪れて宝物調査を行っています。この時、秘仏であった夢殿の「救世観音」像が千年余の時を経て、その御姿を現されたと伝えられています。

そんな御縁でしょうか、天心先生没後に先生の御威徳を偲んで有志によって夢殿を模した「岡倉天心六角堂」建立されました。法要はこの御堂の前を式場として進められました。開扉された御堂の奥に鎮座する平櫛田中作の金色の天心先生胸像を拝観し、参列者一同、思想家、文人、哲学者、美術行政家等々、多彩な顔を持った偉大な先生の霊に頭をさげたので

す。ところで、非常に残念なことに赤倉の岡倉天心六角堂は、この冬の豪雪によって深刻な被害を被りました。現在、応急的な手当は施してはあるものの本格的な修復工事は、これからです。それゆえ、法要当時は御堂は一部ブルーシートに覆われたままでした。

五浦の六角堂は再建されました。まだ登録文化財の指定はないものの、赤倉の

岡倉天心六角堂と横山大観先生の筆による「天心岡倉覚三終焉之地」の石碑（左側）



財団専務理事
小宮 浩

六角堂は日本の文化史上において、貴重な記念碑であると思います。明年は天心先生没後百周年、生誕一五〇周年にあたります。五浦同様に天心先生所縁の地を保存し、後世に伝えてゆくためにも是非皆さま方の御支援、御協力をお願いする次第です。

【お問合わせ】

岡倉天心没後一〇〇周年 生誕一五〇周年記念事業実行委員会
〒949-2111
新潟県妙高市赤倉585-1
赤倉総合事務所内
TEL 0255-87-2165
FAX 0255-87-3071

役員等のご紹介

当財団は、新制度の施行に伴い、内閣総理大臣から公益財団法人の認定を受け、平成二十二年四月一日に公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団に移行しました。また、本年は理事の任期満了に伴う新理事の選任（含む更新）を行うなど、役員等に若干の異動がありましたので、改めて役員等をご紹介します。

◎名誉顧問（二名）

三笠宮崇仁殿下

◎顧問（二名）

俵谷 利幸 弁護士
玉井 賢二 東京藝術大学特任教授

◎評議員（二十二名）

飯田 亮 セコム(株)取締役最高顧問
内村 宏 (株)三越伊勢丹 三越美術部長
浦井 正明 寛永寺 長藺
奥島 孝康 早稲田大学 学事顧問
是枝 伸彦 (株)ミロク情報サービス 代表取締役会長
西園寺裕夫 (公財) 五井平和財団 理事長
佐藤 一郎 東京藝術大学 教授
佐藤 寿美 (株)NKKエンタープライズ 代表取締役社長
白井 勝也 (株)小学館 取締役副社長
澄川 喜一 彫刻家 横浜市芸術文化財団 理事長
高橋 司 (公財) 鹿島美術財団 常務理事
田淵 俊夫 日本画家(公財) 日本美術院理事

◎理事（十名）

理事長 宮田 亮平 東京藝術大学 学長
副理事長 林 有厚 (株)東京ドーム 代表取締役相談役
専務理事 小宮 浩 (公財) 文化財保護・芸術研究助成財団
堤 清二 (公財) セゾン文化財団理事長
永岡 公 (株)精養軒 取締役相談役
中澤 一雄 (株)高島屋 美術部長
野間 省伸 (株)講談社 代表取締役社長
箱島 信一 朝日新聞東京本社 特別顧問
英 正道 (公財) 日伊協会 会長
土生 修一 読売新聞東京本社 事業局次長
真室 佳武 東京都美術館 館長
水野敬三郎 東京藝術大学 名誉教授
渡邊 明義 (一財) 世界紙文化遺産支援財団 紙守代表理事

理事

高嶋 達佳 (株)電通 取締役会長
滝 久雄 (株)NKB 取締役会長 創業者
田邊三郎助 町田市立博物館 館長
西浦 忠輝 国士館大学 教授
野口 昇 (公社) 日本ユネスコ協会連盟 理事長
野村吉三郎 全日本空輸(株) 特別顧問
宮廻 正明 東京藝術大学 教授

◎監事（二名）

西巻 茂 税理士
布施 謙吉 弁護士
二〇一二年六月現在 敬称略／五十音順

文化財保存修復支援 カレンダー募金のお知らせ



二〇一三年のカレンダーは、出光美術館所蔵の国宝「伴大納言絵巻」を東京藝術大学日本画研究室が現状模写した作品を題材にしました。平安時代における四代絵巻の一つで、実際に起きた事件をもとに制作された壮大な歴史ドラマが描かれています。上、中、下巻に分かれているこの物語の現状模写作品が完結するまで、今後数年間に

わたり取り上げてゆく予定ですのでご期待願いたいと思います。オリジナル作品に優るとも劣らない模写制作の卓越した技術をご堪能いただくとともに、文化財保護の重要性をご理解いただければ幸いです。
一口二千五百円以上のご寄付をいただいた方に、このカレンダーを贈呈いたします。お申し込みは下記までお問い合わせください。

*

【お問い合わせ】

文化財保護・芸術研究助成財団カレンダー係
TEL (〇三) 五六八五―三二一
受付時間 十時～十七時（土、日、祝日及び十二月二十七日～一月四日を除く）

文化財保存修復支援 カレンダーを贈呈します

当財団では、文化財保護の精神と重要性を広く知っていただくため、右記の二〇一三年版文化財保存修復支援カレンダーを、抽選で二十名様にプレゼントします。

【応募方法等】

ハガキに、「文化財保存修復支援カレンダー希望」とご記入の上、住所、氏名を明記し、左記へお送りください。なお、発表は、当選者へのカレンダー発送をもって代えさせていただきます。

●応募先

一〇一〇〇〇七
台東区上野公園十二―五十
(公財) 文化財保護・芸術研究助成財団
●締切
平成二十四年十一月末日

お願い

◎東日本大震災被災文化財の救援と復旧のための募金のお願

東日本大震災によって被災した文化財の保全にむけて、募金活動を行っています。いただいた浄財は、被災地域の文化財の救援のために活用させていただいております。と共に、今後の修復・保存のために活用させていただきます。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。募金のお振込は左記の銀行又は郵便局からお願いいたします。

*

銀行振込 ①銀行名②口座番号③名義

①三井住友銀行 上野支店

②普通 6615496

③(公財)文化財保護・芸術研究助成財団郵便振替 (①振替番号②加入者名)

①0016015112319

②(公財)文化財保護・芸術研究助成財団(通信欄に「地震」とお書きください)

なお、募金はクレジットカードからも可能です。詳細は当財団のホームページをご覧ください。

*

皆様のご協力によって二年目に入った文化財レスキュー活動は、順調に推移しております。この秋から原発事故で手を差し伸べる事が出来なかった福島県の被災文化財にも調査、救援の手が入ることになりました。また、建造物に対しても被災地全域を対象に調査、復旧のための文化財ドクター制度が発足する見通しとなりました。当財団もレスキュー活動同様に協力をする所存です。

東日本大震災被災文化財の復旧支援事業

(2)平成二十四年度東日本大震災被災文化財復旧支援事業

①事業名…沢虎舞復興

○住所…宮城県気仙沼市唐桑町

○概要…沢虎舞は、八十六年の伝統があり、地域を造り、守り、維持するコミュニケーションの場として活動をしてきた。東日本大震災による津波で流失した民俗芸能の保存・伝承に必要な太鼓の一部を、この度の助成で新調・補充した。



新調した太鼓

②事業名…小塚原の首切地蔵(延命寺地蔵尊復旧工事)

○住所…東京都荒川区南千住

○名称…宗教法人浄土宗 延命寺

○概要…明治二十八年に鉄道敷設工事のため現在地に移設され、地域住民に「延命地蔵尊」として親しまれてきた。また、小塚原の首切地蔵は荒川区の有形文化財に登録・指定されている。二十七個の花崗岩を組み合

は緒についたばかりであり、長期戦になることが想定されます。

時の経過とともに忘れられないよう、息の長い支援が必要です。引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

◎賛助会員ご入会並びにご寄付のお願い

当財団では、財団の活動趣旨にご賛同いただき、ご支援いただける賛助会員の法人、個人の方々を募集しています。

法人正会員	年額(1口)	50万円
個人正会員	年額(1口)	1万円
維持会員	年額(1口)	10万円

財団案内および賛助会員入会申込書のご請求、その他お問い合わせは財団事務局にご連絡下さい。

わせた高さ三メートルを超える石仏で他に類例がほとんどみられない。東日本大震災により胴体の一部がずれ、左腕が落下し、倒壊の恐れがあったため、台座から構築し直し修理した。



修理後の地藏尊

助成金の申請に関するお知らせ

平成二十五年度の助成事業に係る助成金の申請について、左記のとおり受付を行う予定です。なお、詳細は、当財団ホームページ(助成金の申請)でご確認ください。

【申請時期(予定)】

①文化財の保護(文化財保存修復助成)、芸術研究助成事業他(例年実施事業)

平成二十五年一月十日～二月末日

②東日本大震災被災文化財復旧支援事業
平成二十四年十二月十日
～平成二十五年二月末日

今号の表紙

平山郁夫 北京の秋



北京の秋 1979年

中華人民共和国の首都であり、元、明、清の三つの王朝の六百年にわたる帝都でもあった北京。この都は北方のモンゴル族が一二七一年に元を建て、大都として築かれた。元を滅ぼした漢民族による明は三代永楽帝のとき、一四二一年に北京に遷都した。さらに北方の満州族の清も、一六四四年に明を倒すと北京に入り、中国全土を統一した。

広大な中国大陸の統治をめぐる王朝の交代劇は、さながら壮大な歴史絵巻とも言えるようか。

北京の秋は美しい。ここに描かれている紫禁城(現・故宮博物院)は、皇帝の居城である。瑠璃瓦が幾重にも連なる壮麗な建築は見る者を圧倒する。紫禁城は一九八七年にユネスコ世界遺産に登録された。

陽がまさに落ちんとする秋の夕暮れ、歴史の好きな平山画伯にとって、この作品は中国史との対話でもあったであろう。

PICK UP 事業

平成二十三年度に実施した文化財保存修復助成事業及び平成二十四年度に実施した東日本大震災被災文化財復旧支援事業について、修復が完了した文化財の一部を左記のとおり紹介します。

(1)平成二十三年度文化財保存修復助成事業(例年実施助成事業)

①事業名…木造蔵王権現立像及び木造不動明王立像の保存修理

○住所…東京都西多摩郡檜原村

○名称…宗教法人 五社神社

○概要…東京都指定有形文化財で、九、十世紀の作。虫糞による黒点状の汚れや経年劣化等により汚損、変色していたものを、虫糞の除去、虫蝕・虫孔部への充填処置、及びクリーニングし、補彩をした。



修理後の蔵王権現立像

編集後記

少し政治の世界に触れます。今年は日中国交正常化四十年という節目の年にあたります。誰もがこの秋は、日中双方の様々な分野で記念の行事が盛大に開かれるであろう、と思ったことでしょう。しかし、尖閣諸島をめぐる諸問題が契機となって、分野を問わず日中間の交流が事実上途絶えてしまったことを大変残念に思います。一日も早く、双方が未来志向で友好的に語り合える日が復活することを願ってやみません。

巻頭言では日本赤十字社の近衛忠輝社長に御執筆をお願いいたしました。超御多忙の中での御寄稿、スタッフ一同心より感謝申し上げます。

恒例の文化財保存修復支援カレンダー募金を開始いたします。二〇一三年からのカレンダーは、国宝「伴大納言絵巻」の現状模写作品を題材としました。模写制作の卓越した技術と共に今号で御紹介した絵巻の見所と展開されるドラマティックな物語の進行をお楽しみいただきたいと思います。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)

二〇一二年 秋号 通巻第七十号

★平成二十四年十月十五日発行

★編集発行/公益財団法人文化財保護・

芸術研究助成財団 事務局◎

〒110-0007 東京都台東区上野公園十二十五

電話(〇三)五六八五一一三一一

FAX(〇三)五六八五一一五二二五

URL: http://www.bunkazai.or.jp/

E-mail: jimbukyoku@bunkazai.or.jp

★印刷 株式会社 東都工芸印刷